

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	共生型デイサービス ケアLabo		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年12月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共生型デイサービスとして通所介護と放課後等デイサービスを一体的に運営しており、高齢者と子どもが日常的に関わる環境が整っていることが大きな強みである。世代を超えた交流を通して、子どもは思いやり社会性育み、高齢者にとっても生きがいや役割意識の向上につながっている。今後は交流のねらいや効果をより明確化し、共生型の特色をさらに活かした支援へと発展させていくことが期待される。	共生型デイサービスの特性を活かし、高齢者と子どもが無理なく関われる時間や場面を意識的に設けている。特別な行事だけでなく、日常のあいさつや活動を通して自然な交流が生まれるよう工夫している。	日常的な交流に加え、世代間交流のねらいや目的を明確にした年間計画を作成し、より計画的に実施していく。活動の振り返りを行い、子どもと高齢者双方にとって意義のある交流へと充実を図る。
2	高齢者と子どもが同じ空間で過ごすことで、日常の中に自然な学びや支え合いが生まれている点が強みである。特別な行事だけでなく、日々の関わりの中で多様な価値観や経験に触れられる環境は、共生型事業所ならではの特色である。今後はこの環境を体系的に活かし、地域共生社会の実現に向けた取り組みをさらに充実させていくことが期待される。	高齢者と子どもと一緒に参加できるレクリエーションの機会を設け、世代を超えて同じ活動を楽しめるよう工夫している。共に笑い合い、協力し合う体験を通して、思いやりや社会性の育成につなげている。	共生型ならではの支援の在り方について研修や事例共有を行い、世代間交流をより効果的に支援できるよう職員の理解と対応力の向上を図る。
3	世代間交流を行う中でも、安全計画の策定や、ヒヤリハットの共有、虐待防止研修等を通して、安全管理体制を整備していることが強みである。子どもと高齢者双方が安心して過ごせる環境を維持しながら、家庭との連携を共生型支援の質をさらに高め、より安心・安全で温かい居場所づくり温かい居場所づくりを推進していくことが期待される。	世代間交流を行う際は、安全計画に基づき職員配置や動線に配慮し、双方が安心して過ごせる環境を整えている。また、ヒヤリハットを共有しながら交流方法の見直しを行い、安全と交流の両立を図っている。	事業所内の交流にとどまらず、地域行事や地域資源との連携を視野に入れ、共生型の取り組みを地域へと広げていくことで、より開かれた事業運営を目指す。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日常的な交流は行っているが、世代間交流の目的や効果を明確にした計画的な取り組みとしては十分に整理できていない点が課題である。交流のねらいを明確にし、支援内容として体系化していく必要がある。	共生型事業としての運営を行っているが、世代間の目的や支援効果を体系的に整理した指針や評価基準が十分に確立されていないことが課題の要因である。	世代間交流の目的やねらいを明確にし、年間計画の中に位置づけて体系的に実施する。また、実施後には職員間で振り返りを行い、効果や課題を整理しながら内容の充実を図る。
2	共生型の特色や取り組み内容について、十分に発信できていない部分がある。活動の意義や成果を分かりやすく伝え、理解と協力をさらに深めていくことが課題である。	通所介護と放課後等デイサービスを同時に運営しているため、職員配置や時間調整に工夫が必要であり、交流を計画的に実施するための十分な準備時間の確保が課題となっている。	通所介護と放課後等デイサービス双方の職員が連携しやすい体制を整えるため、定期的な打ち合わせや情報共有の機会を設ける。交流時の役割分担を明確にし、円滑かつ安全に実施できる体制を強化する。
3	世代間交流を行う中で、双方の特性に応じた安全配慮をより一層徹底していく必要がある。交流の充実と安全確保を両立させる体制づくりが今後の課題である。	地域との連携を図りたいと考えているが、地域資源やネットワークとのつながりが十分ではなく、情報共有や協議の機会が限定的であることが要因の一つとなっている。	地域行事や関係機関との情報交換の機会を積極的に持ち、共生型事業所としての取り組みを外へ発信する。地域とのつながりを広げることで、支援の幅を拡充していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		共生型デイサービス ケアLabo				公表日	令和8年2月20日	
						利用児童数	令和8年1月5日	
						回収数	8	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	71%	29%	0%	0%	・共生型ということで、高齢者の方とのスペースもあり、多少の制限はあるのかなと思う。	共生型の為、高齢者と共有部分も多く、子ども達のみのスペースの確保が難しい現状にある。出来るだけスペースが確保出来るよう、長期休みや下校時間が早い場合などに外出を企画している。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	86%	0%	0%	14%	・子どもから誰と何をしたかをあまり話してくれないので何とも言えない。	子どもの利用人数によって、1人1人に関わる時間がどうしても短くなり、配置人数が適切であっても、わからないという回答があったと考えられる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き、児童の状態に合わせた環境設備を行い、清潔で安全に過ごすことができるようにする。また、視覚支援により、特性に応じた環境設備を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	86%	14%	0%	0%		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		個別と集団の活動の中で、1人1人の特性を把握した上で対応している。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	86%	0%	0%	14%		児童の成長に合わせた支援を行っており、保護者にも分かりやすく具体的に示したり、数値化して記載している。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		個別と集団の活動の中で、1人1人の特性を把握した上で対応している。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	86%	0%	0%	14%		デイサービス計画書の書式の見直しを行い、放課後等デイサービスガイドラインの支援内容をもとに計画書の作成を行っており、保護者にもわかりやすく説明を行っていく。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		引き続き、児童の思いや保護者の意向を踏まえて個別計画を作成していく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	86%	0%	0%	14%		活動プログラムが固定化しないよう工夫されており、長期休みや下校時間が早い時には外出を企画し、公園や工場見学・体験、買い物体験等を行っている。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	43%	0%	14%	43%	・長期休みになると色々な所へ出かけ、経験や他者との交流の機会も良く作ってくれていると思う。	現在保育園や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館等との交流は実施できていないが、年末には毎年餅つきを行い交流を行っている。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%	0%	0%	0%		契約時に説明を行っており、引き続きわかりやすい言葉で説明をしていけるよう努力していく。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%	0%	0%	0%		送迎時や面談時に計画書の説明を行っている。引き続き分かりやすい言葉で計画書の説明を行っていく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	0%	28.50%	28.50%	43%	・通所し出して1年経っていないので分からない。	家族支援プログラムについては現在実施できていないが、機会があれば参加したいとの意見もあった為、情報交換の機会等が作ることができるよう計画していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	100%	0%	0%	0%		児童の様子を送迎時にお伝えしたり、連絡帳や電話、LINEでも連絡を取っており、日頃から情報の共有ができるよう、コミュニケーションをとっていく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	86%	0%	0%	14%		相談時には丁寧な対応を行い、悩みに対してはできる限り解決に至るような助言ができるよう職員の専門性を高めると共に保護者と一緒に考え、寄り添った支援ができるように努めていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	86%	0%	0%	14%		児童一人ひとりに合わせた支援を行っているが、保護者にも伝えるよう、さらにしっかりと日々の様子や活動内容を伝えていけるようにしていく。
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0%	14%	28.50%	57.50%	・通所し出して1年経っていないので分からない。 ・保護者会等、子どものことについて話し合える機会があると嬉しいと思う。	昨年から意見を踏まえて、ご家族同士の交流会を令和8年2月中旬に開催を予定している。毎年年末に餅つき大会を開催しており、保護者やきょうだい同士の交流を行っている。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%	0%	0%	0%		相談に対する体制については、丁寧な対応を行っていく。また職員会議を行い、迅速に対応できるように努める。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		安心して利用していただけるよう、送迎時やモニタリング、連絡帳やLINEでの意思疎通や、情報伝達に努める。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	71%	0%	0%	29%		令和7年4月より、季節ごとに年4回通信を発行している。引き続きホームページの活動の発信も続けていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	86%	0%	0%	14%		個人情報の取り扱いについては、職員全員が注意を払うとともに引き続き十分に配慮していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	71%	0%	0%	29%		各種マニュアルについては、職員間でも周知徹底し、保護者には契約時やモニタリング時に再度周知するよう努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	71%	0%	0%	29%	・子どもからそういった話を聞いていないので分からない。	年2回、地震、火災、水害、土砂災害の避難訓練を行っている。令和8年3月には火災の避難訓練を行った後、消火器訓練も実施予定。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	71%	0%	0%	29%		子どもの安全を確保するための計画についての説明を行い、契約時やモニタリング時に再度周知するよう努める。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	71%	0%	0%	29%		事業所内で発生した事故については保護者に速やかに連絡を行っているが、わからないとの回答もあった為、契約時やモニタリング時に事故等が発生した場合の対応について丁寧に説明していく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%	0%	0%	0%	・いつもケアLaboの日は「今日はケアLabo?」と聞いてきて、「そっだよ」と伝えると喜んでいく。いつも楽しみにしていることが分かる。	引き続き安心して利用していただけるよう努めていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	86%	14%	0%	0%		児童一人ひとりが楽しく過ごすことができるよう、引き続き活動内容の見直しや行事の計画を行っていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%		全ての児童や保護者に満足していただけるよう、信頼関係を深め、支援を行っていく。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	共生型デイサービス ケアLabo				公表日	令和8年2月20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	62.5%	37.5%	長期休暇は外出を計画し、外で学ぶ機会(社会見学等)を企画している。	どうしても子ども達が活動するスペースが少なくなってしまう(特に長期休暇)。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	2対1で対応できるようにしている	1人1人に密に関わる時間が少なくなってしまうこともあり、送迎中の車内や到着時間によって人数の少ない時間を利用して個々に関わる時間を作っている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	利用児童の状態に合わせた環境整備を行い、集中しやすい環境作りを行っている。	子ども達が伸び伸びと運動をするようなスペースはなく、お年寄りも居る為、行動制限が多い。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	毎日清掃、1日2回の消毒を行い、清潔で安全な環境作りを努めている。感染対策を行い、利用児童が安心して過ごすことができるように衛生管理に万全の注意を払っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	75%	25%	クールダウンのスペースを確保したり、必要に応じて利用児童が自由に部屋や場所を使用できるようにしている。	子ども専用の部屋が一つ必要ではないかと考える。静養室を子どもの心を落ち着かせる時に使用予定。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	毎月の検討課題や、取り組みの進捗状況の確認を行っている。	全職員がPDCAサイクルに参画できているが、今後は参画の質をさらに高める為、意見交換の機会や振り返りの時間を充実させ、より実効性のある業務改善につなげていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	毎月の職員会議の中で保護者からの意見と踏まえて、業務の見直しを行っている。	保護者評価を通して意向を把握する機会は確保できているが、今後はより具体的な意見収集と迅速な業務改善につなげる為、情報共有とフィードバック体制の充実を図っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	毎月職員会議を行い、職員同士の意見交換、必要に応じて業務の見直し、検討を行っている。	意見収集は実施できているが、より自由に発言しやすい職場風土の醸成や、日常的な話し合いの機会を増やし、継続的な改善活動につなげていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	50%	50%		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	施設内研修を行っている。外部研修についても調整を行い、参加を行っている。また他の事業所への見学研修も行っている。	外部研修については回数も少ない為、積極的に参加しているよう調整を行っていく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	支援プログラムを作成し公表するとともに、定期的な見直しを行い、職員間で内容を共有しながら、実態に即した支援につなげている。	公表は実施できているが、保護者への周知方法や内容理解に差が生じないよう、説明の機会の充実や分かりやすい資料作成に努め、より活用しやすい形へ改善していく。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	見学時や契約時に保護者からニーズや課題の聞き取りを行い、児童の利用時に状況把握と分析を行った上で目標や支援計画の作成を行っている。	アセスメント及び計画作成は適切に実施できているが、今後は定期的な見直しを行い、より個々の状況や成長に即した支援内容となるよう改善を図っていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	職員会議や個別支援計画作成会議の際に計画書の見直しや検討を行っている。	職員間で共通理解を図りながら検討はできているが、今後も情報共有や協議の機会を充実させ、より質の高い支援計画の作成につなげていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	利用児童の思いや保護者の意向を踏まえて個別計画を作成し、職員間で情報の共有を行っており、今後も継続していく。	計画の共有及び計画に沿った支援は実施できているが、今後も情報共有と振り返りの機会を充実させ、より統一した支援の実施につなげていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	75%	25%	個別活動・小集団活動・自由遊びなど、場面ごとの行動を記録することで、子どもの適応行動や対人関係、ルールの理解の状況を把握するよう努めている。	標準化されたアセスメントツールを用いた評価を行っていない為、子どもの適応行動を客観的・数値的に把握する点については課題がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	ガイドラインの各支援領域を踏まえ、具体的な支援内容を設定し、共有・見直しを行いながら実践している。	各支援領域を踏まえた計画作成はできているが、今後も見直しを行い、より個々のニーズに即した具体的な支援内容となるよう充実を図っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	日常的に意見交換ができる環境作りを行い、全職員が主体的にアイデアを出しながら、多角的な視点で活動を企画している。	職員間の情報共有や意見交換をさらに活発にし、全職員が主体的に参画できる体制作りを進め、チームとしての支援方向性に努めていく。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	87.5%	12.5%	子どもの興味関心や発達状況に応じて活動内容を見直し、職員間で意見を出し合いながら多様なプログラムを取り入れるよう工夫している。	活動内容の見直しや工夫は行っているが、プログラムが固定化しないよう、今後も定期的な振り返りと改善を行い、さらなる多様化を図っていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	87.5%	12.5%	子どもの発達状況や特性に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ、一人ひとりに合った無理のない形で活動に参加できるよう工夫している。	個別活動と集団活動の組み合わせは実施できているが、今後も子どもの状況に応じたきめ細かな調整を行い、個々に適した支援の充実を図っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	全職員が参加し、意見交換を行うことで共通理解を図り、統一した支援が行えるよう努めている。	より活発な意見交換が行えるよう、全職員が発言しやすい環境作りを進め、チームとしての支援力向上に努めている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	75%	25%	支援終了後に職員間で振り返りの時間を設け、その日の子どもの様子や支援内容について気づきを共有し、次回の支援に活かせるよう努めている。	振り返りは概ね実施できているが、今後は確実に実施できるような時間の確保と体制整備を行い、情報共有の徹底を図っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	日々の支援内容や子どもの様子を記録し、職員間で共有するとともに、振り返りや支援の改善に活用している。	記録は徹底できているが、今後も内容の充実を図り、より効果的な支援の検証・改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的にモニタリングを実施し、子どもの状況や支援効果を確認しながら、必要に応じて計画の見直しを行っている。	定期的なモニタリングは実施できているが、今後も評価の精度を高め、より効果的な計画の見直しにつなげていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%	0%	子どもの課題やニーズに応じて、個別活動・集団活動・社会参加活動等を組み合わせ、日々の活動が偏らないよう工夫している。	活動が固定化しないよう内容の見直しや工夫を継続し、子どもの発達段階やニーズに応じた、より個別性の高い支援を強化していく。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	87.5%	12.5%	活動内容や役割、遊び等について複数の選択肢を提示し、子どもが自分で選べる機会を日常的に設けている。	自己選択の機会は設けているが、全ての子どもが十分に自己決定できるよう、支援方法のさらなる工夫と充実を図っていく。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	日々支援に関わっている職員が参加し、子どもの様子や課題を具体的に伝えることで、関係機関との共通理解を図っている。	参加職員からの情報共有をさらに充実させ、会議内容を全職員に確実に周知し、支援により一層反映できる体制を強化していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	87.5%	12.5%	連携内容は職員間で共有し、一貫した支援につなげている。	機関によって連携状況に差がある為、定期的な情報共有や会議の参加の機会を増やし、より円滑な連携体制を構築していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	学校との連絡体制を整え、トラブル発生時には迅速に情報共有・対応できるよう連携を強化している。	情報共有の内容をさらに充実させ、行事の変更や緊急時にも迅速に対応できるよう連絡体制の強化を図っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	62.5%	37.5%	就学前の情報は相談支援事業所を通じて把握しているが、保育所や幼稚園との直接的な情報共有が十分ではないため、今後は連携の機会を広げ、より円滑な移行支援につなげていく。	保護者の意向に配慮しながら、可能な範囲で就学前機関との情報共有の拡充に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	87.5%	12.5%	児童発達支援管理責任者を中心に職員間で情報を整理し、適切な引き継ぎが行えるよう体制を整えている。	本人・家族が安心して移行できるよう、説明や情報共有の機会をさらに充実させることが課題である。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	75%	25%	神崎郡内には児童発達支援センターが設置されていないため、相談支援事業所との連携を中心に支援体制を整えている。	児童発達支援センターとの直接的な連携が難しいため、代替となる相談体制や研修の機会の確保など、専門的支援を受けられる体制づくりが課題である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	50%	50%	現在は安全面や子どもの特性への配慮から、地域交流の機会は十分に設けられていないが、今後は無理のない形での交流の可能性を検討していく。	地域との交流を実施するための体制や調整方法が十分ではないため、受け入れ先との調整や実施方法の検討が課題である。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	50%	50%	自立支援協議会への参加はできていないが、相談支援事業所や関係機関との日常的な連携を通じて地域ネットワークの構築に努めている。	今後参加の機会が得られるよう働きかけを行うとともに、地域情報の収集方法の拡充が必要である。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	連絡帳や送迎時の対話を通して、日々の様子を伝え合い、保護者と子どもの発達状況や課題について共通理解を図っている。	今後も保護者との情報共有を継続し、より丁寧でわかりやすい説明を心掛け、共通理解の深化を図っていく必要がある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	50%	50%	アンケート実施時点では未実施であったが、その後家族交流会を開催し、保護者同士の情報共有や、交流の機会を設けた。	家族交流会を実施することができたが、今後は継続的に開催できる体制づくりが課題である。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に書面を用いて説明を行うとともに、不明点がないか確認しながら理解を得られるよう丁寧に説明している。	説明内容や方法にばらつきが出ないよう、説明手順や資料の統一を図ることが課題である。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	子どもの発達段階に応じた方法で意思を確認し、本人の思いや希望を尊重した計画作成に努めている。	子どもの発達段階に応じた意思確認の方法について、さらに工夫を重ねていくことが課題である。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	放課後等デイサービス計画を提示し、内容を丁寧に説明した上で保護者の同意を得ている。	保護者の理解度に差が生じないよう、説明方法や資料の工夫を継続していくことが課題である。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	保護者からの相談に随時応じ、必要に応じて面談の機会を設け、助言や支援を行っている。	保護者がより相談しやすい環境づくりを継続し、相談支援の質の向上を図っていくことが課題である。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	37.5%	62.5%	アンケート実施時点では未実施であったが、直近で家族交流会を開催し、保護者同士が交流できる機会を設けることができた。また、毎年年末には家族参加型の餅つき大会を実施し、家庭同士の交流の場づくりに努めている。	参加しやすい日時や内容の工夫を行い、より多くの家庭が参加できる仕組みづくりが必要である。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情対応の体制を整備し、重要事項説明書等で周知するとともに、苦情があった際には迅速かつ適切に対応している。	苦情が発生した際の対応だけでなく、未然防止に向けた取り組みをさらに強化していくことが課題である。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	今年度より年度内4回の通信の発行を開始し、活動の写真や職員紹介、長期休暇の様子等を掲載することで、事業所の活動状況を分かりやすく発信している。	情報発信の内容や方法について、より分かりやすく充実させていくことが課題である。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報の管理について職員間で周知徹底し、適切に取り扱っている。	個人情報保護に関する意識の維持・向上を図るため、継続的な確認と見直しを行っていくことが課題である。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	子ども一人ひとりの特性に応じた方法で意思疎通を図り、分かりやすい情報伝達に努めている。	子どもの発達段階や特性の変化に応じて、伝達方法を継続的に見直ししていくことが課題である。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	62.5%	37.5%	年末に実施している餅つき大会等の行事を通して、地域とのつながりを意識した運営に努めている。	地域住民を広く招待する機会はまだ十分ではないため、地域に開かれた事業運営をより推進していくことが課題である。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	マニュアルを整備するだけでなく、定期的な見直しを行い、実効性のある運用に努めている。	保護者への周知方法についても、より分かりやすい説明を検討していくことが課題である。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	業務継続計画を策定し、非常災害を想定した避難訓練等を定期的に実施している。	想定をより具体化し、非常時に職員が迷わず行動できる体制づくりをさらに強化していく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	87.5%	12.5%	該当児童は在籍していないが、契約時や面談時に健康状態や既往歴について確認している。	現在該当児童はいないが、今後に備えて確認体制や対応手順の周知徹底を継続していくことが課題である。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	87.5%	12.5%	現在、食物アレルギーのある児童は在籍していないが、利用開始時に健康状況の確認を行っており、該当児童がいる場合には医師の指示書に基づき適切に対応できる体制を整えている。	食物アレルギー発生時の対応について、職員全体が共通理解を持てるよう、定期的な確認や研修を行っていく必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画を策定し、計画に基づいた研修や訓練の定期的な実施している。また、日々の支援の中でも危険個所の確認やヒヤリハットの共有を行い、安全管理の徹底に努めている。	訓練が実際の緊急時に十分活かせるよう、より実践的な内容の充実を図る必要がある。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	安全計画に基づく取り組みを保護者へ周知し、家庭との連携に努めている。	安全計画の内容について、より分かりやすい方法で周知し、家庭との連携をさらに強化していくことが課題である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハット事例を記録し、職員会議等で共有している。発生要因を分析し、再発防止策を検討した上で、日々の支援に反映させている。	ヒヤリハットの共有が形式的なものにならないよう、原因分析をより深め、具体的な再発防止策につなげていくことが課題である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止のための研修を定期的な実施し、職員の意識向上を図っている。また、虐待防止マニュアルを整備し、全職員へ周知徹底している。	虐待防止の取り組みが形骸化しないよう、継続的な研修の実施と内容の充実を図っていくことが課題である。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	87.5%	12.5%	対象児童はいないが、身体拘束は原則行わないことを基本とし、やむを得ない場合には管理者を含めた組織的判断を行うこととしている。	現在該当児童はいないが、万が一に備え、判断基準や手続きについて職員間で継続的に確認していくことが課題である。	